

聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記7・1～24

ノアの箱舟

あなたと家族とはみな箱舟には
いりなさい。 創世記7・1

目標

箱舟なるキリストを信じ、その
救いの中に入る者となる。

7月5日（日）

聖書
聖句

創世記7・1～24

あなたと家族とはみな箱舟にはいり
なさい。 1節

ノアが六百才の2月17日に起こった大洪水。
想像できますか？ 日本に、2011年3月11日に起
こった地震と津波！ここは大丈夫と思っていた
高い所も津波に押し流されました。ノアの
大洪水の時も人々は高い山にのがれましたが、
地は全面、全く水におおわれてしまい、箱舟の
外の生き物はすべて滅びてしまったのです。
生き残ったのは、箱舟の中のノアたち、たった
8人だけでした。今、私たちが入って救われる
箱舟とは、「イエス様」です。信じて救われよ
う！

祈り

天のお父様、この世は罪と汚れの大洪水
です。イエス様を信じて罪の中から救わ
れます。救いの箱舟を感謝します。

7月6日（月）

聖書
聖句

創世記7・1～5

あなたと家族とはみな箱舟にはいり
なさい。 1節

今週の暗唱聖句です。もう覚え了吗？
きょう注目したいのは、「あなたの家族」、特
に、『家族』という言葉です。ノアの家族は、
奥さんと、3人の息子たち、そしてそのお嫁さ
んたちで、合計8人家族でした。その8人だ
けが洪水から救われました。神様は、家族ぐ
るみ救おうとしておられるのです。あなたの
家族は何人なのかな？ みんなクリスチャン
なら大感謝！まだの人がいたら、「救ってく
ださい」と神様にしっかりお祈りし続けま
しょう。

祈り

天のお父様、あなたは家族みんなの救いを
願っていてくださり感謝します。私の家族
も全員救われますように。

7月7日（火）

聖書
聖句

創世記7・1～5

ノアはすべて主が命じられたように
した。 5節

誰もが一つの口と二つの耳を与えられていま
す。神様が、「よく聞くのですよ。聞くことが一番
大切です」とおっしゃっておられるようです
ね。ノアはでっかい耳を二つ与えられていたの
でしょうか？ いいえ、耳の大きさではなく、
神様の声がよく聞ける、心の耳がしっかり開
かれていたのです。だから、よく聞こえて、そ
してちゃんと言われたとおりにできたのですね。
これを従順、すなおに従う心と言います。
すなおに従う心で聞いてこそ、はじめて聞い
たことになります。

祈り

天のお父様、救いのためには、ノアのよ
く聞こえた心の耳と、すなおに従う心
が大切だったことを知りました。

7月8日（水）

聖書
聖句

創世記 7・1～5

また空の鳥の中から雄と雌とを七つずつ取って、その種類が全地のおもてに生き残るようにしなさい。 3節

「清い獣の中から雄と雌とを七つずつ」「空の鳥の中から雄と雌とを七つずつ」取るように、との神様の命令でした。ノアはすべて、神様が命じられるようにしたのでした！ 小さな犬や猫やうさぎやらをつかまえるのはいいけど、それでも逃げ回られると大変！ 大きな動物やこわそうな動物、それに空の鳥もつかまえるのですから、大変だったのかなアとあってしまいます。きっと神様の助けがあったのでしょ。

いのちの祈り 天のお父様、あなたのご命令が大変と思えても、あなたの方から助けてくださってできると信じます。

7月9日（木）

聖書
聖句

創世記 7・6～12

こうして七日の後、洪水が地に起った。 10節

「七日の後、わたしは四十日四十夜、地に雨を降らせて、わたしの造ったすべての生き物を、地のおもてからぬぐい去ります」（4）と、神様はノアに言われました。「あと七日しかない」とノアは心ひきしめる思いで聞いたことでしょう。なぜなら、神様が言われたことは、必ずその通りなるということを知っていたからです。ノアは人々に洪水のことを伝えたにちがいありません。でも人々は、ノアと家族のことをバカにして聞く耳をもたなかったのです。

いのちの祈り 天のお父様、あなたの言われたとおり、なぬかごこうずいおよんじゅうにちよんじゅうやあめ七日後に洪水が起こり、四十日四十夜、雨でした。み言葉に聞き従います。

7月10日（金）

聖書
聖句

創世記 7・13～16

そこで主は彼のうしろの戸を閉ざされた。 16節

電車にすべり込み「セーフ！」で乗り込んで、うしろの戸がスーッとしまったなんて経験ありますか？ ひや汗ものでしょう。今は電車の戸も、自分で閉めるものはほとんどないでしょう。ノアは箱舟の入口の戸も、実は、ノアや家族の誰かが閉めたものではありませんでした。「主は彼のうしろの戸を閉ざされた」とありますから、まちがいなく神様でした！ するともう絶対に外から入れません。救いの戸は閉ざされたのです。でも、「キリストの救いの戸」は、今も開いているから大丈夫！

いのちの祈り 天のお父様、今はまだイエス様による救いの戸はオープンなので感謝です。家族みんなが救われますように。

7月11日（土）

聖書
聖句

使徒行伝 16・25～34

主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。 31節

このみ言葉の約束が、どんなに真実であるか、たくさん家族が声をそろえて、「アーメン」と言うにちがいありません。この場面は、パウロとシラスが足かせをかけられ牢獄に入れられて、最悪と思えるところです。しかし、ふたりは神に祈り、さんびを歌いつづけ、そこに神様による大地震が起こり、獄の戸があき、囚人の鎖がとけるといふ奇跡！ しかし、もっと大きな奇跡は、この獄屋番とその家族が主イエスを信じ救われ、バプテスマを受けたことでした！

いのちの祈り 天のお父様、家族の救いのための素晴らしいお約束のみ言葉をありがとうございます。信じて祈っていきます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記11・1～9

バベルの塔

これによってその町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を乱されたからである。

創世記11・9

目標

神に背を向けることの恐ろしさを覚えると共に、その恵みの深さを知る者となる。

7月12日(日)

聖書
聖句

創世記11・9

これによってその町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を乱されたからである。 9節

今、世界には196の国と、77億人をこえる人が、くらしているんだって！

それぞれの国の人の言葉も、顔も、ぜんぶちがうし、日本人には日本人らしさがあるのと同じで、国がちがえば考え方もちがっていて、ほんとにバラバラ。

でもね、イエス様を信じているわたしたちは、国や考え方がちがったとしても、聖霊の力で、神様を愛し、おたがいを愛し、心を一つにできるように変えられているんだよ！ それってすごいことだね！ 神様、ありがとう！

祈り

天のお父様、聖霊によって、心が一つにされることを感謝します。

7月13日(月)

聖書
聖句

創世記11・1～2

全地は同じ発音、同じ言葉であった。 1節

むか～しむかし。ノアの箱舟のお話の少しあとの時代。地球に今みたいに人間がいなかったときには、みんな同じ言葉を話していたんだね。

神様はね、地球をつくり、アダムとエバをつくられたときから、この地球いっぱい人間が増えひろがっていくことを願っておられたんだ。世界中のみんなが、神様を見上げて、神様を賛美して生きていたらこんなにすばらしいことはなかったよね。でも、人間は自分の自由や、自分の楽しみを探して、それだけがたいせつだと思ってしまうものです。

あなたはとうですか？

祈り

天のお父様、どこにいてもあなたを忘れて生きていくことがないように、心に留めます。

7月14日(火)

聖書
聖句

創世記11・3

こうして彼らは石の代りに、れんがを得、しっくいのかたまりに、アスファルトを得た。 3節

レンガやアスファルトって、今でも色んなところで見えるよね。便利な生活には必要だよ。

ノアの子どもの、そのまた子どもの子どもの名前はニムロデ。ニムロデは地球でいちばんはじめに「権力」をもった人なんだ。権力っていうのは、人やものごとを動かす力のこと。

ひとりの人が権力を持つと、やがて、神様が自分にしてくれたことをわすれて「自分が神様」だと思わせることがあるんだ。

どんな力も、道具も、神様がくれたものだって、忘れないでね！

祈り

天のお父様、べんりさも、権力も、あなたがくださったものです。

7月15日(水)

聖書
聖句

創世記11・4

さあ、町と塔とを建てて、その頂を天に届けよう。そしてわれわれは名を上げて、全地のおもてに散るのを免れよう。 4節

クラスの中に、一番強くて目立つ人っている？その人が何か言うと、みんなそれをまねしたり、そうすることがあたりまえだと思ったり。

ニムロデは、権力をもったことで、自分がいちばん賢くて強いと勘違いしてしまいました。それだけでなく、そこに住む人みんなが「そうだそうしよう」って従っちゃったんだね。

そうになると、神様の言葉や命令が聞けなくなり、神様にしたがうなんてばかばかしい、とみんな言い始めます。ほんとにそうでしょうか？

いのちの祈り 天のお父様、どんな人間よりも、あなたがかしこく、力のあるお方だと信じます。

7月16日(木)

聖書
聖句

創世記11・5～6

彼らはすでにこの事をしはじめた。彼らがしようとする事は、もはや何事もとどめ得ないであろう。 6節

わすれないでほしいことがあるんだ。

あなたが神様を覚えていても忘れていても、いいことをしているときも悪いことをしているときも、神様はあなたを覚え、じっと見ておられるということ。どんなときも、神様が喜ばれることをえらんでほしい、それがあなたへの神様の願いだということ。

まちがった時には、神様は正しく生きるための方法を考えてくださるよ。神様がわたしたちを愛してくださるしょうこだね。

いのちの祈り 天のお父様、わたしが自分勝手な生き方をしたときに、わたしのまちがいを正してください。

7月17日(金)

聖書
聖句

創世記11・7

さあ、われわれは下って行って、そこで彼らの言葉を乱し、互に言葉が通じないようにしよう。 7節

一か所にかたまって、便利な道具や生活を手に入れ、「もう神様なんかいらない」と思うようになった人間をみんな滅ぼすことは、神様にとって簡単なことだったかもしれないね。でもそうではなく「言葉を乱す」のが神様の方法だったんだ。

人間がどんなにかたまって神様をいらない！と反抗しようとしてもそうさせないだけでなく、人が地球いっぱい広がるためにも、必要なことでした。神様の知恵ってすごいなあ！

いのちの祈り 天のお父様、すべての問題の解決を、あなたの知恵におまかせします。

7月18日(土)

聖書
聖句

創世記11・8

こうして主が彼らをそこから全地のおもてに散らされたので、彼らは町を建てるのをやめた。 8節

この一週間で、自分があたりまえだと思っていた毎日や、便利な生活は、じつは神様からのプレゼントだったこと、感じられましたか？

また、神様が「ダメだよ」と言われるときには、自分の考えを変えるじゅんぴができましたか？地球に起きるいろんなできごと（病気や台風や地震や戦争）を見るときに、今、神様は何を言っているのかなあ、と立ちどまってじっくり考え、神様の声を聴くことができる、いいなと思います。

いのちの祈り 天のお父様、あなたがくれた地球と人生、あなたの声を聴きながら、感謝してすごしていきます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記12・1～9

アブラハムの旅立ち

あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。

創世記12・1

目標

罪から離別し、神の導きに従って生きる者となる。

7月19日(日)

聖書
聖句

創世記12・1

あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。 1節

新しいことを始めるときは、いつだって最初の一步をふみ出す勇気があるよね！

そんなとき、だれかに助けてほしいし、力になってほしいんじゃない？

アブラハム(アブラム)は、その最初の一步を、お父さんでもお母さんでもなく、神様の声を聞いて信じ、「よし、行こう！」と決めた人なんだ。

だれよりも自分を知っていて、愛してくれる神様に従うんだから、まちがいないよね！

わたしたちも、神様に聞いて、信じて、最初の一步を歩き出そうよ！

祈り

天のお父様、ただあなただけに聞いて、人生を歩いて行けますように！

7月20日(月)

聖書
聖句

創世記12・2～3

地のすべてのやからは、あなたによって祝福される。 3節

この地球と、生きるすべてのものを造られたまことの神様の声を聞いて従ったアブラハムに、神様は大きな祝福を約束されました。

地球にいるすべての民族は、アブラハムによって祝福される、ということです。

考えてみれば、アブラハムから始まって、四千年以上たった、ぜんぜんちがう国にいるわたしも、同じ神様を信じて祝福のバトンタッチがされてきているんだよ！すごいね！

そして、この祝福は、バトンを受けたわたしたち一人ひとりが、ほかの人にもあげられるものだって、知ってくださいね。

祈り

天のお父様、アブラハムから流れてきた祝福を、わたしからほかの人へつないでいけますように。

7月21日(火)

聖書
聖句

創世記12・4

アブラムはハランを出たとき七十五歳であった。 4節

アブラハムが神様を信じて旅立ったのはなんと七十五歳！「え～、おじいちゃんじゃん！」と思った人、いるんじゃない？

もし、自分に若さやお金や才能など、力も元氣もたくさんあったら、人は、自分の力でなんとかがんばろうとするよね？ ぎゃくに自分の力が弱くて頼りないって知っている人は、神様に頼りやすいんだよ。

だから、神様に従うのに「おそろぎた」っていうことはないし、自分が弱いことを知るとは、自分が神様によって変わる大きなチャンスなんだよね！

祈り

天のお父様、弱さを知ることはあなたに変えていただくチャンスだと信じます。

7月22日（水）

聖書
聖句

創世記12・5～6

アブラムは妻サライと、第^{おとうと}の子ロトと、集^{あつ}めたすべての財産と、ハランで獲^えた人々とを携^{たづさ}えてカナンに行こうとしていで立ち、カナンの地^ちにきた。 5節

右^{みぎ}を向いても左^{ひだり}を向いても、神様^{かみさま}が悲^{かな}しむ場所^{ばしょ}ばかりの世界。アブラハムが出^でた国^{くに}も行^いき着^ついた国^{くに}も、やっぱり、まことの神様^{かみさま}を信^{しん}じない人^{ひと}達^{たち}の場所^{ばしょ}でした。でもね、神様^{かみさま}は、アブラハムをひとりぼっちにはさせ^{ひつよう}なかったし、必要な^{あつ}ものは与^{あた}えてくださってるでしょう？

罪^{つみ}の世界で、神様^{かみさま}だけ^{せかい}を信^{しん}じて生^いきていくのは大^{たい}変^{へん}なことだけど、力^{ちから}を合^あわせて祈^{いの}り、歩^{ある}いてくれる人^{ひと}、あなたにもいるからね！

いの
祈り

天^{てん}のお父^{とうさま}様、いっしょに歩^{ある}いてくれる信^{しん}仰^{こう}の仲^な間^{かま}がわたしにもいることを感^{かん}謝^{しゃ}します。

7月23日（木）

聖書
聖句

創世記12・7

わたしはあなたの子孫^{しそん}にこの地^ちを与^{あた}えます。 7節

まことの神様^{かみさま}を信^{しん}じないし従^{したが}わない、そんな人^{なか}たちの中に自分^{じぶん}が送^{おく}られたら、オロオロして、どうしよう！ってなっちゃうよね！？

アブラハムもきつとそうだったと思う。でもそんなアブラハムに神様^{かみさま}は、「ここはあなたにプレゼントしたんだよ」って言^いったんだ。

神様^{かみさま}を信^{しん}じ従^{したが}う人^{ひと}を、神様^{かみさま}はぜったい悪いよう^{わる}にはな^{つみ}さらず、どんな罪^{つみ}のある場所^{ばしょ}も祝^{しゅく}福^{ふく}の場所^{ばしょ}に変^かえてくださるお約^{やく}束^{そく}だね！

あなたが行^ゆくすべての場所^{ばしょ}も、そういう「祝^{しゅく}福^{ふく}の場所^{ばしょ}」になっ^いていくように、祈^{いの}っていこうね！

いの
祈り

天^{てん}のお父^{とうさま}様、どんな罪^{つみ}のある場所^{ばしょ}にいくときも、あなたがいっしょにいて、そこを祝^{しゅく}福^{ふく}の場所^{ばしょ}に変^かえてください。

7月24日（金）

聖書
聖句

創世記12・8

そこに彼^{かれ}は主^{しゅ}のために祭壇^{さいだん}を築^{きず}いて、主^{しゅ}の名^なを呼^よんだ。 9節

祭壇^{さいだん}を築^{きず}いたっていうのは、礼拝^{れいはい}をする場所^{ばしょ}をつくったということ。そして主^{しゅ}の名^なを呼^よんだっていうのは、神様^{かみさま}に礼拝^{れいはい}したっていうとわかりやすいかな？ しかも、だれもまことの神様^{かみさま}を信^{しん}じていない場所^{ばしょ}で、目^めに見えるように、行^{こう}動^{どう}で信^{しん}仰^{こう}をあらわしているんだ。

日本^{にほん}も神社^{じんじゃ}やお寺^{てら}が多い国^{くに}だし、学校^{がっこう}でも教^{きょう}会^{かい}に行^いっているお友^{とも}達^{たち}は少^{すく}ないと思う。それでも、行^{こう}動^{どう}で、目^めに見えるように、神様^{かみさま}を信^{しん}じていることをあなたなりに表^{あらわ}していけるといいなと思います。アブラハムがお手本^{てほん}だね。

いの
祈り

天^{てん}のお父^{とうさま}様、あなたを信^{しん}じない人^{ひと}たちの中^{なか}であつても、信^{しん}仰^{こう}を行^{こう}動^{どう}で表^{あらわ}していけますように。

7月25日（土）

聖書
聖句

創世記12・9

アブラムはなお進^{すす}んでネゲブにう^{うつ}移^{せつ}った。 9節

ネゲブはカナンの一^{いち}番^{ばん}南^{みなみ}にある場所^{ばしょ}だつて。だから、アブラハムはカナンの地^ち域^{いき}を北^{きた}のほうから南^{みなみ}のほうまで、まるで、神様^{かみさま}のお約^{やく}束^{そく}を味^{あじ}わうように、自分^{じぶん}の足^{あし}で歩^{ある}いてたしかめたつていうことだね。

神様^{かみさま}があなたにすばらしい人生^{じんせい}を用意^{ようい}してくれたとき、一^{いっ}歩^ぽ一^{いっ}歩^ぽ、どんなに大^{おお}きな祝^{しゅく}福^{ふく}だろう！ と期^き待^{たい}しながら、そして、努^{どり}力^{りよく}しながら、そのお約^{やく}束^{そく}にこたえていく。そんなことを教^{おし}えてくれるように思^{おも}います。

神様^{かみさま}の大^{おお}きな人生^{じんせい}の祝^{しゅく}福^{ふく}を、一^{いっ}歩^ぽ一^{いっ}歩^ぽ踏^ふみしめて、受^うけ取^とっていこうね！

いの
祈り

天^{てん}のお父^{とうさま}様、わたしも一^{いっ}歩^ぽ一^{いっ}歩^ぽ、祝^{しゅく}福^{ふく}を味^{あじ}わいながら受^うけ取^とります！



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記15・1～16

神による約束

アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。

創世記15・6

目標

神の約束を信じて生きる者となる。

7月26日（日）

聖書
聖句

創世記15・1

アブラムよ恐れてはならない、わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは、はなはだ大きいであろう。
1節

行き先がわからないけど、神様が示されるところにすんでいったアブラム。そんなアブラムに、神様は「わたしはあなたの盾」とおっしゃいました。わたしはあなたと共にいて、あなたを守るよ！と言われたのです。さらには「あなたの受ける報いは、はなはだ大きい」ですって。つまり、たくさんの祝福、ごほうびがありますよ、って。すごい約束ですよ！神様は、神様だけに従ったアブラムに、こんなすばらしい約束をしてくださいました。神様にだけ従う、ここが大切なところです。

祈り 天のお父様、アブラムのようにあなただけに従う人にならせてください。

7月27日（月）

聖書
聖句

創世記15・2～4

あなたはわたしに何をくださろうとしますか。
2節

アブラムにとって、神様の祝福の約束はふしぎでした。「神様、わたしには子どもがいないので、しもべのエリエゼルが、わたしの跡つぎになるんです。それなのに、どんな祝福をくださるのでしょうか…。アブラムにとっては、しもべが跡つぎになるのが、ざんねんで、祝福と思えませんでした。その正直なきもちを神様にお話したのです。神様は、「あなたの子どもが跡つぎになるべきです」とはっきり答えてくださいました！

あなたのきもちを正直に神様に祈ってみましょう。神様はちゃんと答えてくださいます。

祈り 天のお父様、わたしのきもちを聞いてくださることを感謝します。かくさないで、正直にお祈りしていきます。

7月28日（火）

聖書
聖句

創世記15・5

天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみなさい。…あなたの子孫はあのようなになるでしょう。
5節

神様の言葉に、アブラムはびっくり。さらに、神様はアブラムを外につれ出され、うつくしい星空をみせて、「星を数えることができるなら数えてみなさい」。えっ、とても数えきれない！さらに神様は「あなたの子孫はあのようなになる」。アブラムの子孫は、数えきれない星のようにふえるよ！という約束をされたのです。

神様のご計画は、アブラムが考えられないほどすばらしいものでした。あなたの人生にも、びっくりする神様のご計画がありますよ。

祈り 天のお父様、わたしにたててくださっているすばらしいご計画を、心から期待していきます。

7月29日（水）

聖書
聖句

創世記15・5～6

アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。 6節

あなたの子孫は、数えきれない星のようにふえる。この言葉はかんたんに信じられる約束ではありません。だって、アブラムには、ずっと子どもがいなかったのですから。でも、アブラムは信じました。子どもはまだいないけど、神様の言葉なら、かならずそうなるはず…！アブラムには想像もできないことでしたが、神様の言葉を信じたのです。神様はアブラムの信仰をよろこばれました。

信仰というのはね、まだおこっていないけど、見てないけど、神様のみ言葉はかならずそうなる！と信じること。これが信仰！

いのちの祈り 天のお父様、あなたのみ言葉は、かならずそのとおりになります。心から信じます。

7月30日（木）

聖書
聖句

創世記15・6

アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。 6節

今日も、昨日とおなじみ言葉です。神様の言葉を心から信じたアブラム。神様は、そんなアブラムを、義と認めてくださいました。神様の前に正しい、と認めてくださったのです。アブラムが何かよいことをしたから、義とされたのではありません。信じたから義とされたのです。

これには、とても大切なメッセージがこめられています。わたしたちは、何かよいことをしても罪はゆるされないし、義とはされません。イエス様の十字架と復活を信じるのなら！義とされるのです。神様があなたに願っておられることは、あなたが信じることなのです。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様の十字架と復活を、アブラムのように、ただ信じます。わたしを義と認めてくださることを感謝します。

7月31日（金）

聖書
聖句

創世記15・7～11

わたしはこの地をあなたに与えて、これを継がせようと、あなたをカルデヤのウルから導き出した主です。 7節

神様の、アブラムへの約束はさらにつづきます。アブラムが見わたしている地をあなたに与えます、というのです。子孫だけでなく、ひろいひろい土地まで、与えてくださる約束です。神様は、動物をもちいてアブラムに約束の儀式をさせました。この儀式には、神様が責任をもって約束をまもるよ！という意味がありました。

神様は、わたしたちの人生も、最後まで責任をもってみちびくことを約束してくださっています。なんて心づよいことでしょう！

いのちの祈り 天のお父様、あなたがわたしの人生を、責任をもってみちびいてくださることを、心から感謝します！

8月1日（土）

聖書
聖句

創世記15・12～16

あなたはよく心にとめておきなさい。…四代目になって彼らはここに帰って来るでしょう。 13、16節

神様はアブラムをふかく眠らせ、眠っている中で「よく心にとめておきなさい」と語られました。アブラムの子孫が、これからほかの国に住んで、奴隷にされてしまうこと。でも、400年ののち、かならずここに帰ってくる、というのです。アブラムが天国にいった先の先、子孫のことまで、神様は計画されていたのです。

神様があなたに立てているご計画は、あなただけでは終わらないんです。もっともっと大きな神様のご計画があって、あなたをみちびかれます。どんなご計画かな？期待しましょう！

いのちの祈り 天のお父様、あなたの大きなご計画のなかで、わたしをみちびいてくださることを感謝します。ワクワクします！



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記18・1～15、21・1～8

イサクの誕生

サラはみごもり、神がアブラハムに告げられた時になって、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。

創世記21・2

目標

神の約束は必ず実現すると信じる者になる。

8月2日（日）

聖書
聖句

創世記18・1～2

主はマムレのテレビンの木のかたわらでアブラハムに現れられた。1節

神様は、アブラハムにはアブラハム、妻のサライにはサラという名前をつけられました。神様が、アブラハムに「あなたの子孫は星の数のようにふえるよ！」と約束されてから、しばらくたちました。神様の約束はどうなったのでしょうか。…おや。アブラハムが座っていると、なんと三人の人がアブラハムを見て立っています！神様の言葉をアブラハムに伝えるために、三人のみ使いが彼のまえに現れたのです。

神様は、いつでも神様のほうから現れてくださいます。わたしたちに必要なみ言葉を、いちばん必要なときにあたえてくださるのです。

いの祈り

天のお父様、いつも、わたしに必要なみ言葉をあたえてくださり、ありがとうございます。

8月3日（月）

聖書
聖句

創世記18・2～8

わが主よ、もしわたしがあなたの前に恵みを待っているなら、どうぞしもべを通り過ごさないでください。

3節

三人の人を見たアブラハムは、「神様からつかわされた人たちなのでは？」と思って、走っていき、「どうぞ通り過ごさないでください」と言ってむかえました。おおいそぎでサラにパンを作ってもらい、たくさんのごちそうを準備しました。神様がみ使いをおして現れてくださったこと、神様の言葉を聞けることが、アブラハムはほんとうにうれしかったんですね。

神様のみ言葉が聞きたいです、大かかげいです！って、み言葉を心にむかえたいですね。

いの祈り

天のお父様、あなたのみ言葉を心からかかげいして、むかえていきます。

8月4日（火）

聖書
聖句

創世記18・9～10

その時、あなたの妻サラには男の子が生まれているでしょう。10節

み使いはアブラハムに言いました。「来年の春、わたしはあなたの所に帰ってきます。その時、妻のサラに男の子が生まれていますよ」。サラはうしろのほうで、こっそり聞いていました。

実は、このときアブラハムにはイシマエルという息子がいたんです(16章を読もう)。サラに赤ちゃんが与えられないので、神様の約束をまてなくて…、女のしもべをおして赤ちゃんが生まれるようにしたのです。でも、神様は「妻サラに生まれる！」とハッキリ言われました。み言葉の約束をまちなさい、そのとおりになるんだから。…神様はそう言っておられるんです。

いの祈り

天のお父様、わたしがあせらないで、み言葉の約束をまてるように、たすけてください。

8月5日（水）



創世記18・11～12

サラは心の中で笑って言った、「わたしは衰え、主人もまた老人であるのに、わたしに楽しみなどありえようか」。

12節

み使いの言葉を聞いていたサラ。心のなかで笑ってしまいました。うれしい笑いではなくて、あきらめの笑いです。サラは、ふつうなら赤ちゃんを産める年れいではありませんでした。アブラハムだって、おじいちゃんだし。男の子が生まれるなんて、そんな楽しみがあるはずない…そう思ってたって笑ってしまったのです。

サラの気持ちもわかります。神様のみ言葉はほんとうかな？無理じゃない？って、うたがったり、あきらめてしまうことがありますか。

いの祈り 天のお父様、み言葉をうたがったり、あきらめたりしないように、わたしをまもってください。

8月6日（木）



創世記18・13～15

主にとって不可能なことがありますしょうか。 14節

サラが心のなかで笑ったのを、み使いは知っていました。それで、アブラハムに「どうしてサラは笑ったのか」と言いました。サラはドキッ！み使いはつづけて言いました、「主にとって不可能なことがありますしょうか」。こわくなったサラは、「わ、わたしは笑ってません」とごまかしました。光景が目にかかれます。神様は、あきらめているサラに「神様に不可能はない。信じなさい！」と教えられたのですね。

神様のみ言葉をうたがってしまいそうな時、この力づよい神様の言葉を思いだそう！「主にとって不可能なことがありますしょうか」！

いの祈り 天のお父様、あなたにとって不可能なことは、なにもないと心から信じます！

8月7日（金）



創世記21・1～5

サラはみごもり、神がアブラハムに告げられた時になって、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。 2節

ついに、その時がきました。サラのおなかに赤ちゃんが与えられました。神様が言われたとおりに男の子が生まれたのです！その子は「イサク」と名づけられました。

イサクが生まれたとき、アブラハムは100才。サラは90才だったんです。ふつうに考えたらありえないこと。でも、神様には不可能はない、とわかるためにも、このタイミングでイサクを与えてくださいました。神様のすばらしい約束は、神様がタイミングをきめておられて、かならず実現するのです！

いの祈り 天のお父様、あなたのみ言葉の約束は、かならず実現すると信じます。神様のタイミングをワクワクして待ちます！

8月8日（土）



創世記21・6～8

サラは言った、「神はわたしを笑わせてくださった。聞く者は皆わたしのことで笑うでしょう」。 6節

イサクが生まれて、アブラハムとサラの喜びはどれほどだったか！イサク、という名前には「彼は笑う」という意味が。サラはイサクを見てニコニコ！以前のような、あきらめの笑いではありません。神様が、わたしを笑わせてくださった！と感謝のスマイルです。まわりの人々もいっしょに感謝のスマイル。やがてイサクは乳ばなれして、せいだいにお祝いをしました！

神様は、約束を実現させてくださり、スマイルをくださるんですね。神様に心からの感謝とスマイルをお返ししたいですね！

いの祈り 天のお父様、み言葉の約束を実現させてくださるあなたに、感謝とスマイルをささげつづけていきますように。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 9・1～8

罪の赦しの恵み

子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ。

マタイ 9・2

目標

あらゆる祝福に先だって、罪の赦しの恵みを受け取る。

8月9日（日）

聖書
聖句

マタイ 9・1～8

子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ。 2節

中風という病気を知っていますか？ 手や足が痛くてふるえる病気です。友だちはその中風で苦しんでいる人を床の上に寝かせたままでイエス様のもとに運んできました。イエス様はその友人たちの信仰を見て、中風の人にむかって言われました、「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と！ えっ!? 罪がゆるされたですって!? と、本人もみんなも思ったでしょう。病気より罪がゆるされる方が大事なのです。

いの
祈り

天のお父様、病気になった時、もしかしてあなたにそむくような罪を犯していないか考えてみることにします。

8月10日（月）

聖書
聖句

マタイ 9・1～8

人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために。 6節

「そんな一!? 罪をゆるせるのは神しかないはずだ、この人は神を汚している」と、律法学者たちは心の中でぶつぶつ言ったのです。それをイエス様はちゃんと見抜いておられました。そして今度は、中風の人に、「起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われました。するとどうでしょう！ 彼は起きあがって家に帰って行ったのです。病気をいやす力も罪をゆるす力もみんなイエス様は持っておられるお方です。

いの
祈り

天のお父様、病気がなおることよりも、罪がゆるされて、滅びから救われるということが大切だとわかります。

8月11日（火）

聖書
聖句

イザヤ 43・22～28

わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない。 25節

神様は、どんなにかわたしたちの罪やとがをゆるしたい、きよめたいと願っていらっしゃるかが旧約聖書の中にもいくつも記されています。ご自分の愛する民イスラエルのために、いえ、それは神様自身のためだと言われます。「とがを消す」黒板消しで、サーッとぬぐうと、何が書かれていたのかわからなくなります。そのように私のとがやあやまちを消し去ってくださり、罪を心にとめないと言ってください。

いの
祈り

天のお父様、罪ほど心を苦しめるものはないのに、それを消し去り、心にとめないと言ってください感謝します。

8月12日（水）

聖書
聖句

イザヤ 44・21～23

わたしはあなたのとがを雲のように
吹き払い、あなたの罪を霧のように
消した。 22節

青い空に浮かぶ白い雲、時には灰色の雲や、
黒っぽい雲。ずっとそこにいるように見えるの
もあれば、急ぎ足で飛んでいってしまうものも
あります。そんな雲のように、神様が私のと
がを吹き払って、どこに行ったのか見えなくし
てくださる！霧はめったに見えないかもしれ
ませんが、もや一とかかる霧がサーッと晴れ
てなくなってしまうように、私の罪もサーッ
とかき消してどこに行ったかわからなくして
くださいます。

いの
祈り 天のお父様、あなたが私のとがを雲のよ
うに吹き払い、罪を霧のように消して晴れ
やかな心にしてくださり感謝です。

8月13日（木）

聖書
聖句

エレミヤ 31・31～34

わたしは彼らの不義をゆるし、もは
やその罪を思わない。 34節

犯してしまった罪を忘れさせないで何度も思
い出させては、私たちを苦しめるのは悪魔です。
「あれ、やっただろう！」って、訴えてくるの
です。でも神様はちがいます。「わたしはゆるし
ますよ、そして、もうその罪については思わな
いことにしています」って！神様が、心にと
めなかったり、忘れたり、思わないなんてでき
るのでしょうか？ できるのです。神様がご自分
でそうおっしゃっておられるのですから！

いの
祈り 天のお父様、罪を罰することのできるたっ
たひとりのあなたがゆるしてくださり、忘
れてくださるとは恵みです。

8月14日（金）

聖書
聖句

I ヨハネ 1・5～7

御子イエスの血が、すべての罪から
わたしたちをきよめるのである。7節

わたしたちのどうしようもない罪がゆるさ
れるたった一つのわけがここにあります。罪を
犯す人は必ず死ななければならないのです。
昔は羊や山羊の上に自分の罪をかぶせて、そ
の動物を殺して血を流しました。今、私たち
のためにイエス様が十字架で死に、血を流して
くださいました。一つの罪も犯されなかったイ
エス様の清い血が流されて、私の身代わりと
信じるなら、すべての罪からきよめられるので
す。

いの
祈り 天のお父様、ほんとうに「すべての罪」
から私をきよめてくださるイエス様の
血の力を覚え、光の中を歩みます。

8月15日（土）

聖書
聖句

I ヨハネ 1・8～10

もし、わたしたちが自分の罪を告白
するならば、神は真実で正しいかたで
あるから、その罪をゆるし、すべての
不義からわたしたちをきよめて下さ
る。 9節

ですから！何よりもまず一番に、私たちは
罪をゆるしていただくことを求めています。
病気がなおっても、罪がゆるされていない
なら、それはついには永遠の滅びにいたる病氣
なのです。どうしますか？「自分の罪を告白す
る」のです。「言いあらわして、お祈りする」の
です。キャンプでした人もありますか。牧師先
生にお話して罪を告白して、ゆるしきよめても
らいましょう。

いの
祈り 天のお父様、イエス様の十字架を私の罪
の刑罰の身代わりと信じ、罪を告白します
ので、ゆるしきよめてください。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 10・1～16

弟子たちの派遣

わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおかみの中に送るようなものである。マタイ 10・16
主に遣わされた者として生きる者となる。

目標

8月16日(日)

聖書
聖句

マタイ 10・1～4

イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊を追出し、あらゆる病氣、あらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった。1節

今週は、イエス様が12人の弟子たちを選ばれ、つかわされる場面です。ペテロ、アンデレ、ヤコブ…、みなさんは12人の名前を知っていますか？ この12人、性格も、考え方も、できることも、み～んなバラバラ。はて、これでいっしょにやっていけるのかしら…？

でも、これがイエス様の選びかた。わたしたちは、この人がいい！ あの人ダメ…と自分の都合で選んでしまいがち。でも、イエス様は違います。イエス様にとっては、み～んな必要なひとりひとり。あなたも選ばれているひとりですよ。

いのちの祈り

天のお父様、イエス様が、わたしのことも選んでくださったことを感謝します。

8月17日(月)

聖書
聖句

マタイ 10・5～7

行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。7節

イエス様が弟子たちを選ばれたのは、彼らがたくさんの人々に仕えるためでした。弟子たちをつかわされる時、大切なお話をなさいました。「人々のところに行ったら、『天国が近づいた！』と伝えなさい。天国が近づいた、というのは、『罪を悔いあらためて、神様を信じなさい。神様を心におむかえしなさい』という意味があります。

どんな良いことをしてあげるよりも、神様のことを伝えることが、いばん良いことなのです。いつでも、どこに行くときも、「神様のことを教えてあげたいな」と心に思いながら、チャンスを見つけて伝えたいですね！

いのちの祈り

天のお父様、神様を伝えるチャンスを、たくさん与えてください。

8月18日(火)

聖書
聖句

マタイ 10・9～10

財布の中に、金、銀または銭を入れて行くな。9節

次にイエス様は、「旅には、お金は持っていないこと。袋も、着がえも、靴も、杖も、持っていないこと」と弟子たちに言われました。つかわされたら、しばらく帰ってこられません。それなのに、どうしてイエス様はこう言われたのかな？

それは、弟子たちが、目に見えるお金や物に頼らないで、神様だけに頼るためでした。お金や物が必要な時は、神様が与えてくれる！と信じるためでした。わたしたちも、遣わされる時は神様だけを頼って祈りましょう。それがいちばん安全、安心。あなたに必要なものをいちばん知っておられるのは、神様なんですから。

いのちの祈り

天のお父様、わたしに必要なものは、あなたが与えてくださると信じます。

8月19日（水）



マタイ 10・11～12

その家にはいったなら、平安を祈ってあげなさい。 12節

弟子たちは、つかわされた町では、町の誰かの家に泊まることになりました。イエス様は、「その家のために、平安を祈ってあげなさい」と言われました。

「神様からの平安がありますように！」と人々のために祈る。これは大切な使命です。人間はだれでも、心に平安がほしいのです。不安が良い人なんていません。わたしたちは、神様がいつもいっしょだと知っているし、天国があることも知っています。これはけっしてなくならない、本当の平安。でも、神様を信じていない人は、この平安がありません。人々の平安を祈るために、イエス様があなたをつかわされます！

いの

祈り 天のお父様、わたしの周りにいる人々が、ほんとうの平安を持つことができますように。

8月20日（木）



マタイ 10・13～15

その平安はあなたがたに帰って来るであろう。 13節

つかわされた弟子たちが、神様を伝えるためにせっかく町に入っても、お話を聞こうとしない人々がいました。「うちには来ないで！」と家に入れてくれない人々もいました。

それは、いつの時代でも同じこと。わたしたちの周りにも、「神様の話なんて聞かなくていいよ」と思っている人々はいます。でも、神様のことを伝えてむだになることはないんです。伝えたぶん、神様からの平安が、あなたにドーンと帰ってくるのです！ ことわられてもガッカリしないでください。このイエス様の言葉を思い出して、伝えつづけていきましょう！

いの

祈り 天のお父様、あなたのことを伝えたら、わたしに平安が帰ってくることを感謝します！

8月21日（金）



マタイ 10・16

わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおおかみの中に送るようなものである。 16節

羊をおおかみの中に送ったら…、おそわれて食べられてしまいますね！ まるで、おおかみの群れが羊をねらうように、いろんな人に神様を信じることを反対されたり、邪魔をされることがあります。平和でな～んにもない、ということはないのです。「そんなのいや…」と思いますが、イエス様はハッキリとそう言われました。

イエス様の本当の弟子は、反対や、じゃまをされることがあるのです。それがイエス様の弟子の姿。あなたが落ちこまないように、イエス様は最初に教えてくださったのです。

いの

祈り 天のお父様、じゃまされたり、反対をされた時は、このイエス様のみことばを思い出せますように。

8月22日（土）



マタイ 10・1～16

だから、へびのように賢く、はとのように素直であれ。 16節

へびのように賢く？ はとのように素直とはなんでしょう？ それは、神様の言葉に従う賢さと、神様を信じつづける素直さをもつこと。それが、ほんとうに賢く素直な人なのです。

神様のことを伝えるために、つかわされていくわたしたち。家族のところ、学校や近所のお友だちのところ、あなたが行くところすべては、つかわされている場所。あなたしか行くことのできない場所に、イエス様がつかわされます。イエス様の言われた賢さと素直さがあれば、どんな場所につかわされても、かならず乗りこえて行くことができます！

いの

祈り 天のお父様、つかわされた場所で、あなたのみ言葉に従い、あなたを素直に信じつづけることができますように。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 14・13～21

5つのパンと2匹の魚

パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。

マタイ 14・20

目標

所有する物、また自分自身を、神に献げる。

8月23日（日）

聖書
聖句

マタイ 14・13～21

パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。 20節

そこには、イエス様のお話が聞きたくてやってきていた大勢の人がいました。男の人だけでも五千人！女の人や子どもたちを入れると一万人はゆうに超えていました。食べ物と言えば、パン五つと魚二ひき。えー?! それじゃどうにもならないでしょ。ところがです。イエス様にお献げしたら、イエス様の感謝のお祈りで、パンと魚は弟子たちの手で配られ、な、なんと！食べこぼしたパンくずが十二のかごいっぱい！

いの祈り

天のお父様、どんな小さなわずかなものもイエス様の御手にさし出すと、すばらしく奇跡的に用いられ感謝です。

8月24日（月）

聖書
聖句

マタイ 14・13～14

イエスはこのことを聞くと、舟に乗ってそこを去り、自分ひとりで寂しい所へ行かれた。 13節

「このこと」というのは、バプテスマのヨハネさんが獄の中で首を切られて死んだということでした。イエス様はとても悲しまれ、ひとり静かに神様にお祈りに行かれたのですね。私たちも心が痛くなる時には神様のところに行って静まりましょう。しかし、人々はイエス様の所に歩いてあとを追いかけてきました！それほどにもイエス様のお話が聞きたかったのです。さあ、私たちは？教会学校でしっかり聞こうね。

いの祈り

天のお父様、イエス様のあとを追いかけてまでお話を聞きにきた人々のように、私もしっかり聞きたいです。

8月25日（火）

聖書
聖句

マタイ 14・15～17

わたしたちはここに、パン五つと魚二ひきしか持っていません。 17節

夕方になり、人々の心と魂は、イエス様のお話で満たされましたが、お腹がすいてきました！弟子たちが「もう解散させて、それぞれ食べ物を買に行かせましょう」と言うと、「いや、あなたがたの手で食物をやりなさい」と言われます。弟子たちは、「エーッ！イエス様、ここにはパン五つと魚二ひきしかありません」と言います。実はそれは、小さな少年の、その日のお弁当でした（ヨハネ 6・9）。どうなる!?

いの祈り

天のお父様、その時の弟子たちや少年のように、私も小さい物しか持っていません。でもお献げしていきます。

8月26日（水）



マタイ 14・18～19

イエスは言われた、「それをここに持ってきてなさい」。 18節

イエス様が、「それをここに持ってきてなさい」と言われます。あなただったらどうする？「いやだ！これはね、ボクのお弁当なんだから、ダメ！」って言う？この子どもも弟子たちも、「ハイ」と素直にイエス様にさし出したのです。「草の上にすわりなさい」と人々に言い、パンと魚を手のひらにのせ、天を仰いで祝福し、パンをさいて弟子たちに渡すと、弟子たちはそれを人々に与えました。どんどんどんどんとね！

いのちの祈り

天のお父様、何という心 暖まるイエス様の愛のみわざでしょう！イエス様の手にのると祝福され用いられるのですね。

8月27日（木）



マタイ 14・19～21

みんなの者は食べて満腹した。20節

「みんなの者」って、何人いましたっけ？男の人だけでも五千人です。女の人や子どもを入れると一万人を超えた人たちです。そんな大群衆でしたよ。そのみんなの者が「食べて満腹した」のでした!! たったの五つのパンと、たったの二ひきの魚ですよ！信じられな一い！と思うようなすごい奇跡のみわざでした。そういうわけでこの人々は、イエス様のお話で心も満足、イエス様の奇跡でお腹もいっぱいになりました。

いのちの祈り

天のお父様、イエス様と共にいることは素晴らしいことです。心もお腹も満たされます。ずっと一緒にいます。

8月28日（金）



マタイ 14・20～21

食べた者は、女と子供とを除いて、おおよそ五千人であった。 21節

考えれば考えるほど、なんてスゴイ奇跡だと思いませんか！きつと、一番オドロイテ、カンゲキの頂点にいたのは、そのお弁当をイエス様におささげた少年だったにちがいありませんね！何しろ、そんな大勢の人々に、あの恥ずかしいような大妻のパン五つと小さな魚二ひきとが届けられて、名前も顔も全然知らないような人たちがみんな『満足』するほど食べたのですから。小さい私も小さい物もお届けしたいね！

いのちの祈り

天のお父様、イエス様の手にお献げする時、その祝福は知らない人々にさえ届くなんて、本当に嬉しいです。

8月29日（土）



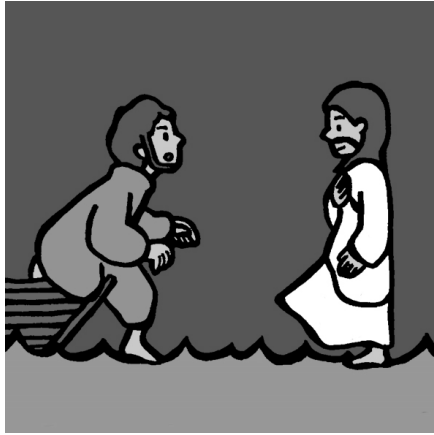
マタイ 14・20～21

パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。 20節

朝、パンを食べている人！今頃はだんだんご飯よりパンを食べる人が増えているのかな？パンくずとありますがパン切れともあります。配り残し分もきつとまだあったのでしょうか。それらの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになりました。へえ、こんな小さなパンくず、パン切れが…？実は十二人のお弟子さんが一かごずつ持ったとして、明日の食べ物までイエス様が用意してくださったというわけです！

いのちの祈り

天のお父様、イエス様の奇跡はほんとに「至れり、尽くせり」です。心から喜んで私も持物も皆お献げします。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 14・22～33

嵐を鎮めたイエス

しっかりするのだ、わたしである。
恐れることはない。

マタイ 14・27

目標

人生の逆風の中でもキリストを見上げ、信仰を持って前進する。

8月30日（日）

聖書
聖句

マタイ 14・22～33

しっかりするのだ、わたしである。
恐れることはない。 27節

自転車に乗れますか？ 追い風だと、後から風が背中を押してくれて、スイスイとよく走れるけど、逆風だと大変ですね。全然進まないばかりか、もうよろけて転げそうになります。ここの弟子たちは海の上の舟が乗り物でした。逆風でこぎ悩んでいる時、なんと海の上を歩いて来られるイエス様を見たのです。「ギャー、幽霊だあ！」って叫ぶ弟子たちは、「わたしだ、恐がるな」とのイエス様のお言葉に安心しました。

祈り 天のお父様、困った時、つらい時、苦しい時、「わたしだ！」と言ってください共にいてくださるイエス様を見上げます。

8月31日（月）

聖書
聖句

マタイ 14・22～23

祈るためひそかに山へ登られた。

夕方になっても、ただひとりそこにおられた。 23節

一万何人ほどの人を「さようなら」と言って、お家に帰らせるのって、大変だったでしょうね。それをイエス様がされたのです。しかもその間に、弟子たちを舟に乗り込ませて、向こう岸へ先に行くようにさせました。イエス様は、どうされたでしょう？ お祈りのために山に登られ、夕方になってもまだそこにひとりおられて、父なる神様にお祈りをされました。実はイエス様の愛の奇跡の力は、父なる神様から来ているのでした。

祈り 天のお父様、イエス様はあなたとのお交わりを愛されただけでなく、必要とされていたことがわかりました。

9月1日（火）

聖書
聖句

マタイ 14・24～25

イエスは夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らの方へ行かれた。 25節

弟子たちの舟は…？ 逆風と波に悩まされて、木の葉のように揺れています。イエス様は、海の上からちゃんとその様子を見ていてくださいました。そして、夜明けの四時頃、一番暗い時に、海の上を歩いて、弟子たちの乗っている舟の方に行かれました。私たちが困っているのも、苦しんでいるのも、悩んでいるのもちゃんとご存知で、海の波のような困難、悩みを踏みつけて近づいてくださるのがイエス様です。

祈り 天のお父様、誰にも知られなくてもイエス様はちゃんと私の悩みを知って近づいてくださり、感謝します。

9月2日（水）

聖書
聖句

マタイ 14・26

弟子たちは、イエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと言っておじ惑い、恐怖のあまり叫び声をあげた。 26節

逆風はビュービュー吹きつけるし、波はドドーッ、バシャーンって舟の中にも入ってきます。それだけで、さすがの漁師だった弟子たちも、青い顔だったでしょう。おまけに、海の上を歩いて近づいてくる影が見えた時、もう彼らの恐れは頂点にきちゃって、叫び声をあげてしまいました、「ギャー、幽霊だ！」って。大の男たちだって、これほど恐い思いをしたことはなかったかも。その影はイエス様なのね。

いのちの祈り 天のお父様、恐ろしい思いをする時、そこにいてくださるイエス様をしっかりと見ることができるよう助けてください。

9月3日（木）

聖書
聖句

マタイ 14・27

しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない。 27節

さすがにイエス様です。弟子たちの叫び声を聞くやいなや、「すぐに」彼らに声をかけて言われました、「しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない」と。何て力強い、頼りになるイエス様のお言葉でしょう！ 私たちにも、イエス様はいつでも、どんな時でも、こういうふうに声をかけていてくださるのです。「あつ、イエス様だ」とわかると、もう恐れなくてもいいのです。しっかりと立つことができますね。

いのちの祈り 天のお父様、これ以上、心が励まされ、安心と力が与えられるみ言葉はありません。共にいてくださるイエス様を感謝します。

9月4日（金）

聖書
聖句

マタイ 14・28～29

ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行った。 29節

「なあ～んだ、イエス様、あなたでしたか」と、弟子たちはどんなにか心がホッと、嬉しくなったにちがいありません。ペテロがどうしたかを見ればよくわかります。「主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください」と言うと、「おいでなさい」とのイエス様のお言葉！ そこでなんとペテロは水の上を歩いてイエス様のところへ行ったのでした。ホントウニ！

いのちの祈り 天のお父様、イエス様と同じように水の上を歩いてイエス様のみもとに行つたペテロの大胆と勇氣はスゴイです。

9月5日（土）

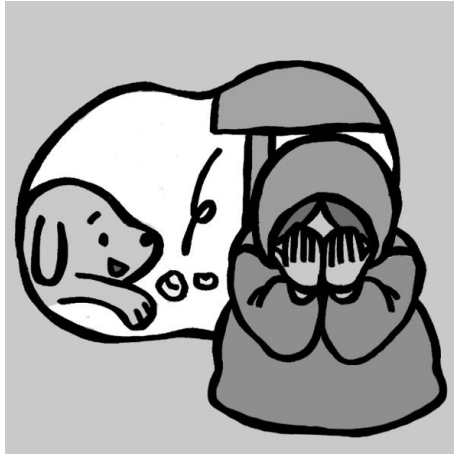
聖書
聖句

マタイ 14・30～33

ふたりが舟に乗り込むと、風はやんでしまった。 32節

ところが、です。次の瞬間、ペテロはイエス様から目を離して、風を見てしまいました。するとそのとたんに、恐ろしくなってしまう、しかもブクブクおぼれかけたのでした。ペテロは叫びました、「主よ、お助けください」と。ここでもイエス様は「すぐに」手を伸ばし、ペテロをつかまえて言われました、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。ふたりが舟に乗り込んでいくと風はやんでしまいました。さすがですね。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様を私の心にお迎えしてさえすれば、どんなつらい時、苦しい時も平安でいられます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 15・21～28

見上げた信仰

女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように。 マタイ 15・28
謙遜でありつつ大胆な信仰によって祈る者となる。

目標

9月6日（日）

聖書
聖句

マタイ 15・21～22

主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます。 22節

イエス様は、ツロとシドンという地方に行きました。ここは、ほんとうの神様を信じない、異邦人の地です。すると、一人の女性がイエス様のところに来て、「ダビデの子よ、わたしをあわれんでください！ 娘が悪霊にとりつかれているんです！」と叫びつづけたのです。そして、くりかえし、くりかえし、叫びつづけました！

あなたには、イエス様に聞いていただきたいお祈りがありますか？ 一回お祈りしただけで、やめていないでしょうか。くりかえし、真剣に祈りつづけるのって、とても大切なんです。

いのちの祈り 天のお父様、一回お祈りしただけであきらめないで、くりかえしお祈りしつづけていきたいです。

9月7日（月）

聖書
聖句

マタイ 15・23

しかし、イエスはひと言もお答えにならなかった。 23節

「ダビデの子よ、わたしをあわれんでください！」と叫びつづける、異邦人の女性。ところが、イエス様はひとこともお返事をされなかったのです。大声で叫んでついてくるんですから、聞こえないはずがありません。弟子たちも、イエス様は、なんで答ええないんだろ…、と、「この女性を追いはらってください」と言ったのでした。

イエス様がお返事されない、答えてくれない。そんなことがあったんですね。でも、イエス様にはお考えがあったのです。イエス様は聞いてくれない、と思う時もイエス様を信頼しよう！

いのちの祈り 天のお父様、イエス様が聞いてくれているのかな？ と思うときも、信頼して祈っていきます。

9月8日（火）

聖書
聖句

マタイ 15・24

わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない。 24節

イエス様がやっと答えられました。「わたしは今、イスラエルの人々のところだけにつかわされているから、異邦人のところにはつかわされていないよ」。この女性は異邦人なので、「あなたのところにはつかわされていない」と。

そんな、イエス様、やっぱりつめたいんじゃない？ いいえ、ちがうんです。この女性は、偶像礼拝をする国の人。ほんとうにイエス様だけを信じて信頼しているか、イエス様は女性の信仰を見ておられたのです。わたしたちは、イエス様だけを信頼しているかな？

いのちの祈り 天のお父様、イエス様はわたしの信仰も見えておられます。ほかのものをたよらず、イエス様だけを信じて信頼します。

9月9日（水）

聖書
聖句

マタイ 15・25

しかし、女は近寄りイエスを拝して言った、「主よ、わたしをお助けください」。 25節

「あなたのところにはつかわされていない」とイエス様に言われてしまった女性。あきらめるかと思いきや、さらにイエス様に近よって、ひれ伏しました。これはイエス様だけを神様として礼拝する姿勢でした。そして、「主よ、わたしをお助けください！」と大声で言いました。助けてくださるのはイエス様しかない！と信じて叫んだのです。

イエス様以外のものは、ほんとうに助けてほしいとき、あなたを助けてくれません。助けてくださるのはイエス様だけなのです。

いのちの祈り 天のお父様、わたしを助けてくださるのはイエス様だけです。この女性のように、もっとイエス様に近づきます。

9月10日（木）

聖書
聖句

マタイ 15・26

子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない。 26節

「子どもたちが食べるパンをとりあげて、ペットの小犬にあげるのはよくないでしょ」とイエス様。「子供たち」とはイスラエルの人々。「小犬」はこの異邦人の女性。つまり、「子どもであるイスラエルの人々を助けしないで、ペットのあなたを助けるのはよくない」と言われたんです。イエス様は女性をペットにたとえて、ユーモアたっぷりの言葉で彼女をテストされたのです。でも、小犬だなんてつめたいと思う？

イエス様は、信仰のテストをされます。イエス様のテストだと気づかないで、イエス様なんです！と文句を言いたくなったこと、ある？

いのちの祈り 天のお父様、イエス様がわたしの信仰をテストされると知りました。ちゃんと気づいて、イエス様を信頼できますように。

9月11日（金）

聖書
聖句

マタイ 15・27

主よ、お言葉どおりです。でも、小犬もその主人の食卓から落ちるパンくずは、いただきます。 27節

イエス様にテストされた女性は、なんと答えたのでしょうか。「主よ、お言葉どおりです」。わたしはパンをもらう資格のない小犬です、…とイエス様の言葉を受けとめました。でも、さらに、「小犬であるわたしも、パンくずはいただきます！ イエス様の恵みをほんの少しでもいただけないでしょうか」と答えたのです。この女性は、自分を低くするほんとうに謙遜な人でした。

わたしたちも、ほんとうは神様の恵みをいただけない罪深い存在なのに、神様は愛してくださり、恵みをくださっています。

いのちの祈り 天のお父様、わたしは、あなたの恵みをうける資格がないのに愛してくださって、ほんとうにありがとうございます。

9月12日（土）

聖書
聖句

マタイ 15・21～28

女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように。 28節

自分を低くしつつも、けっしてあきらめないで、イエス様だけにお願いしつづけた女性。イエス様は「あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。あなたの信仰はすばらしい！と、イエス様は女性をほめられたのです。そのとき、女性の娘はいやされました。イエス様が信仰をほめられることは、めったにないことでした。

イエス様が喜ばれる信仰は、謙遜だけど、とても大胆に祈りつづける信仰。イエス様は喜んで祈りにこたえてくださいます！

いのちの祈り 天のお父様、この女性のように、わたしが謙遜で大胆に祈りつづけることができますように。イエス様に喜ばれますように！



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 25・1～13

主の再臨に備える

目をさましていなさい。その日
その時が、あなたがたにはわからないからである。マタイ 25・13
霊の目を覚まして、主のご再臨
に備えた生き方をする。

目標

9月13日（日）

聖書
聖句

マタイ 25・1～13

目をさましていなさい。その日その
時が、あなたがたにはわからないから
である。 13節

イエス様が信じるわたしたちを再び迎えに
来てくださる、このことを再臨と言います。そ
の日その時は誰にもわかりません。来られる本
人のイエス様も！ もちろんわたしたちもわか
りません。ただ父なる神様だけが知っておられ
ます。九年前は3・11という心張り裂けるよ
うな災害や、台風の災害があり、世の終わりが
近いと誰もが思ったでしょう。再臨から、最後の
審判、新天新地、つまり永遠の神の国、つまり
天国へと移されます。天国のたとえを心に刻み
ましょう。

いの
祈り

天のお父様、あなたがいつ来られてもよ
うに、賢い五人が油を備えていたよ
うに、わたしをもお助けください。

9月14日（月）

聖書
聖句

マタイ 25・1～4

その中の五人は思慮が浅く、五人は
思慮深い者であった。 2節

パッと思いついて、サッとやってしまう人も
いれば、じっくり、ゆっくりよく考えてやる人
もいます。パッ、サッも、時には必要かもしれ
ないです。しかし、「目をさましていなさい」
ということは、きっと、しっかり考えて賢く
やりなさいということなのでしょう。天国のた
とえに出てくるあかりを手にして花婿を迎え
に出て行く十人のおとめ。半分五人は考え
が浅い人、あと五人は考え深い人で、あかり
のために油も一緒に用意をしていたのです。

いの
祈り

天のお父様、「花婿のおいでがもしかして
遅いと、きっと油がもつと必要」と、よ
く考えた賢い五人のようでありたいです。

9月15日（火）

聖書
聖句

マタイ 25・5

花婿の来るのがおくれたので、彼ら
はみな居眠りをして、寝てしまった。 5節

「待つ」ことの苦手な子がいますか？「長い
こと待たされる」と、どんな気持ちになります
か？「やーめた。もうこれ以上無理、待てない」
となりますか？この十人のおとめたちは、
考えの浅い人たちも、考えの深い人たちも、
花婿さんの来るのがおくれたので、待つて、待つ
て、待つうちに、とうとうみんな居眠りがつい
てきて、コックリ、コックリ、そして、グーと
寝てしまいました！気持ちよく寝ていれば、
心もまことに平安でいいかもしれませんね。

いの
祈り

天のお父様、イエス様のおいでになるの
も、今もまだ長く待たれています。みん
なが救われるよう待っていてくださるの
です。

9月16日(水)

聖書
聖句

マタイ 25・6～7

夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と呼ぶ声がした。 6節

夜中、あなたはよく睡眠ですか？ それとも浅い眠り？ 子どもの間はきっと夜中にふと目が覚めたりとか、眠れなかったりとかはないですね。花婿さんは「夜中」にご到着でした！

Iテサロニケ5・2にも「主の日は盗人が夜くるように来る」とありますから、突然、不意打ちのようにして、花婿なるイエス様がやって来られるのですね！ その呼ぶ声に、十人のおとめたちは、一瞬、ボーッとしたかもしれません、ハッとわれに帰ってあかりを整えました。

いの
祈り

天のお父様、いつイエス様が迎えに来てくださってもいいように、目をさまして、待つ子どもにしてください。

9月17日(木)

聖書
聖句

マタイ 25・8～10

わたしたちとあなたがたとに足りるだけは、多分ないでしょう。 9節

ところがです。考えの浅い五人のおとめたちは、急にあわて始めました。アラアラ、もう油がきれてきて、あかりが消えそうだと。そこで油の用意をしていた五人の人たちにお問い合わせ、「あなたがたの油をわたしたちにわけてください」とね。しかし、「あなたがたの分までは足りませんから、店にまで行ってお買いになられたら？」と言われました。五人は出かけて行き、その内に花婿が来られ、婚宴のへやに五人は一緒に入り、戸がしめられたのです！

いの
祈り

天のお父様、自分の油は自分で、つまり、み言葉と聖霊によって信仰のあかりをしっかりともしねばなりません。

9月18日(金)

聖書
聖句

マタイ 25・11～12

しかし彼は答えて、『はっきり言うが、わたしはあなたがたを知らない』と言った。 12節

「そして戸がしめられた」というみ言葉は、ノアの箱舟の時のことを思い出しますね。神様がしめられたら、もう絶対にもう一度あけられるチャンス、入れるチャンスはないのです。とても厳粛ですね。ここでも油を買いに行っていた五人のおとめたちがやっとのことで帰てみると、ああ、戸がしめられている…『ご主人様、ご主人様、どうぞあけてください』と言うと、きょうのきびしいみ言葉の答えでした。イエス様を知り、イエス様に知られている子どもに！

いの
祈り

天のお父様、毎週、まじめに教会に行つて聖書のお話を聞き、毎日聖書を読んでお祈りをし、イエス様と共に歩きます。

9月19日(土)

聖書
聖句

マタイ 25・13

だから、目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。 13節

「だから」と、もう一度、今週のみ言葉をしっかりと、心に刻みましょう。「その日その時」、つまり、花婿なるイエス様がこの地上においでになる時は誰にもわからないのです。ですから、きょうか、きょうかと、毎日、いつも備えている必要がありますね。それで毎日、いつも「目をさまして」いなければなりません。もちろん夜は身体は眠りますが、心の眼はいつもさましているのです。それは教会へ行き、聖書を読み、お祈りし、聖霊に満たされていることです。

いの
祈り

天のお父様、ほんとにイエス様のおいでが近いと感じられます。目をさまして信仰生活に励むことができますように。



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記26・12～22

イサクの井戸

柔和な人たちは、さいわいである、
彼らは地を受けつぐであろう。

マタイ5・5

目標

神に信頼して、柔和な生き方を
身につける。

9月20日（日）

聖書
聖句

マタイ5・5

柔和な人たちは、さいわいである、
彼らは地を受けつぐであろう。5節

あなたはプールの中で、水にふか～つと浮きたいとき、どんなふうになりますか？ きっと体の力をふう～つとぬいているんじゃないかな？ 浮かないかも！ とあばれたりしたらきっと浮かないだろうね～。

柔和っていうのは、ちょうどそんな感じ！
自分の力でジタバタしないで、神様の導かれる道がどんなふうであっても神様を信じ、神様におまかせするんだ。そのとき神様は、あなたをいちばん良いところに導いてくださるよ。

イサクの話から柔和のことを考えよう。

いのちの祈り

天のお父様、わたしをいちばん良いところに導かれるあなたを信じて、おまかせします。

9月21日（月）

聖書
聖句

創世記26・12～14

イサクはその地に種をまいて、その年に百倍の収穫を得た。12節

イサクは、住んでいた場所に飢饉が起きたので少しはなれたところにひっこしました。その場所は自分で決めたのではなく、神様が「この地にとどまるなら、わたしはあなたと共にいて、あなたを祝福する」と言われた場所でした。

その言葉に従うと、イサクは飢えずにすんだだけでなく、その年にたくさんの農作物、たくさんの家畜、たくさんのしもべを持つようになったのです。

これは神様に従ったら祝福されたという、いいお手本だね！

いのちの祈り

天のお父様、わたしもあなたに従って
たくさんの祝福をいただけますように。

9月22日（火）

聖書
聖句

創世記26・15

ペリシテびとは彼の父アブラハムの時に、父のしもべたちが掘ったすべての井戸をふさぎ、土で埋めた。15節

きのうのお話でめでたしめでたし！ と思いきや…。じつはその土地に住んでいたペリシテびとたちが、イサクのことをおもしろくない、とねたんだりひがんだり。

神様に従う生き方は、もちろん祝福されるんだけど、祝福の人生というのは「事件が起きない人生」ではないんだ。争いごとや、いやがらせに巻きこまれることだってあるし、自分の立場をうばわれそうになることも。

でも、だからと言って、信じることをなげださない！ それがたいせつなのです。

いのちの祈り

天のお父様、わたしも信じ続けます。

9月23日（水）

聖書
聖句

創世記26・16～17

イサクはそこを去り、ゲラルの谷に
天幕を張ってその所に住んだ。17節

この時代、井戸というのは、その土地を持っているしょうこでした。また、水がない場所だったので、人々はとても井戸をたいせつにしていたのです。水がないと生きられないしね！

ふつう、自分のものをこわされたら怒るだろうし、直してよ！とか言うよね。でも、イサクはそうしなかったんだ。

イサクは「人々と争うこと」よりも「神様が祝福してくださる」という気持ちをえらんだね。神様の子どもとして、自分はどうするべきか？ちゃんとわかるように、わたしたちもなりたいね！

いの
祈り

天のお父様、なにが起きても、あなたの祝福を信じ、とるべき行動をできますように。

9月24日（木）

聖書
聖句

創世記26・18

イサクは父アブラハムの時に人人
の掘った水の井戸を再び掘った。

18節

イサクのお父さんアブラハムも昔、ここに井戸を掘っていたんだね。そこにもきっと、イサクが経験したような苦労がたくさんあったんだろうな。お父さんはどうやってのりこえたかなあ？そっか、きっとこうだったよね、なんて思い出したこともあったかもしれない。

あなたも、神様を信じて生きていくときに、色んな出来事があるって、どうしたらいいかわからなくなることもあるだろうね。そんなときは、信仰の先輩たちがきっといいお手本になってくれるし、たくさん教えてくれると思うよ！

いの
祈り

天のお父様、信仰の先輩たちの姿からも、いろいろ学ぶことができますように。

9月25日（金）

聖書
聖句

創世記26・19～21

ゲラルの羊飼たちは、「この水はわれわれのものだ」と言って、イサクの羊飼たちと争った 20節

ゲラルの人たちはいじわるだなあ！もうこうなると、水がどうのこうの、じゃなくて、イサクたちが憎いんだろうね！

井戸の名前「エセク」「シテナ」は「争い」「敵意」という意味があるんだって。それは人の罪や、悪魔のすがたとおなじで、神様と、神様を信じる人たちに向けられるものなんだ。

だったらよけいに、人をうらやましがったり、いじわるしたりする、昔の自分のようにではなく、そういう気持ちからはなれなきゃね！

神様からぜったい、はなれるもんか！

いの
祈り

天のお父様、悪魔に、あなたからひきはなされないよう、お守りください。

9月26日（土）

聖書
聖句

創世記26・22

いま主がわれわれの場所を広げられたから、われわれはこの地にふえるであろう 22節

「神様ってすごい！ありがとうございます！」という瞬間があなたにもあるんじゃないかな？

その喜びは、すんなりほしいものが手に入ったときよりも、お願ひしてお願ひして、苦労して悩んで…をのりこえたときのほうがずっと大きいはず！

じつは、悩んだり苦しかったりする中で、神様を信じることや、神様がどんなお方か、なにがたいせつなのかなど、たくさんのかげがえのないことを学んでいるんだね！

柔和、ということも身についていくんだね！

いの
祈り

天のお父様、悩むときにも、たいせつなことを学ばせてくださり感謝します。



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記25・19～34

霊的祝福を求めて

一杯の食のために長子の権利
を売ったエサウのように、不品行
な俗悪なものにならないようにし
なさい。ヘブル 12・16

目標

神からの霊的祝福を大切にして、
追い求める。

9月27日(日)

聖書
聖句

創世記25・19～34

一杯の食のために長子の権利を
売ったエサウのように、不品行な俗悪
なものにならないようにしなさい。

ヘブル 12・16

ユダヤの家庭では、長男というのは特別大切に
されて、他の子どもたちよりも二倍の財産を
もらったりと、神様からの祝福が約束されてい
ました。「へえ、僕、ユダヤ人に生まれればよかつ
た」と思う？ ところが、ここにはそんな祝福が
約束されているのに、せっかく長男として生ま
れたのに、その大切な「長子(長男)の権利」を
軽く考え、奪われてしまった人がいます。その
名はエサウ。どうしてだったのか、よく学んで
エサウのようにならないようにしましょう。

いの
祈り

天のお父様、エサウはたった一杯のおい
しいものに欲をさそわれて、一番大切な
神様の祝福を失いました。残念です！

9月28日(月)

聖書
聖句

創世記25・19～23

一つの民は他の民よりも強く、兄は
弟に仕えるであろう。23節

あなたは何人兄弟？ ひとりっ子？ ふたり
兄弟？ もしかして、男の子ふたりのふたごの
兄弟かな？！ もしそうだとしたら、このエサ
ウとヤコブといっしょです。ふたりは一体どん
な性格でしょう？ お母さんのリベカのお腹の
中でふたりの子たちが押し合いました。リベカ
は困って、不安になり、神様にお祈りしました。
「こんなことで、わたしはどうなります？」と。
すると神様のみ声。お腹の中には二つの国民が
あり、兄は弟に仕えるようになりますと。

いの
祈り

天のお父様、命は本当にあなたからです。
そして人の一生もあなたのご計画の中に
導かれることを知りました。

9月29日(火)

聖書
聖句

創世記25・24～26

その後、弟が出た。その手はエサウ
のかかとをつかんでいた。それで名を
ヤコブと名づけた。26節

イサクがリベカをお嫁さんにもらった時は
40歳でした。子どもがなかなか生まれないので、
イサクは神様にお願いのお祈りをしたのです。
やっと20年目に！ 長く待ったので(?)いっき
にふたりも与えられました！ 初めに出てきた
子は赤くて毛むくじゃらなので、エサウ(赤い)
と名づけられました。次に出てきた弟は、そ
の手でエサウのかかとをつかんで出てきました。
それでその名はヤコブ(押しのかかど)とつけら
れたのです。あなたの名前はどうですか？

いの
祈り

天のお父様、ふたごの男の子たちがイサ
クの長い間のお祈りにこたえられて与
えられたことを知り、感動です。

9月30日（水）

聖書
聖句

創世記25・27～28

イサクは、しかの肉が好きだったので、エサウを愛したが、リベカはヤコブを愛した。 28節

人は誰でもみんな好みというものがあり、それはひとりひとりちがっているものですね。父イサクはしかの肉が好きだったのです。それで、大きくなって、とても上手に猟をする人になって、イサクの好きなしかの肉を取ってきてくれるエサウの方を、ヤコブよりも愛しました。母リベカはというと、子どもたちがお腹の中にいたとき聞いていた神様の約束一兄は弟に仕えるーが心の中にあって、ヤコブを愛しました。こういうのを偏愛というのです。

いのちの祈り 天のお父様、あなたの祝福をついでいくイサクの家庭でも、かたよった愛で子どもを愛していた事に驚きます。

10月1日（木）

聖書
聖句

創世記25・29～30

わたしは飢え疲れた。お願いだ。赤いもの、その赤いものをわたしに食べさせてくれ。 30節

エサウは野で活躍する男らしい人でしたが、ヤコブは天幕の中でシェフをやっていたのですね！ ある日、エサウが疲れて、お腹ぺこぺこで帰ってくると、プーンとおいしそうなにおいがします。ヤコブがレンズ豆を煮ているではありませんか。お腹ぺこのエサウは叫びました「お願いだ。赤いもの、その赤いものをわたしに食べさせてくれ」と。エサウはまたの名をエドム(赤い)とも呼ばれました。エサウはもうすっかりレンズ豆にとらわれていました。

いのちの祈り 天のお父様、食欲がなくては、健康に生きられません。食欲はまた、大きな誘惑になることもわかります。

10月2日（金）

聖書
聖句

創世記25・31～32

わたしは死にそうだ。長子の特権などわたしに何になろう。 32節

ヤコブがこの時にわざわざレンズ豆を煮ていたのには深いわけがあったのです。ヤコブの心の中には、兄エサウが与えられている「長男の特別な権利」、つまり、神様からの霊の祝福をどうしても自分のものにしたいという強い願いがありました。そこでレンズ豆でエサウを誘惑し、「まずあなたの長子の特権を売りなさい」と迫りました。お腹ぺこぺこ、目の前にはおいしそうなレンズ豆ときて、エサウはお腹の足しにならない特権などどうでもよいと思いました。

いのちの祈り 天のお父様、その名もヤコブの、ずる賢いやり口がよく見えます。でもあなたの祝福を求めることは大切な事です。

10月3日（土）

聖書
聖句

創世記25・33～34

彼は飲み食いして、立ち去った。このようにしてエサウは長子の特権を軽んじた。 34節

念には念を入れるヤコブです。「まずわたしに誓いなさい」とエサウに言うと、何と、エサウは誓って長子の特権をヤコブに売ってしまったのでした。大切な神様の霊的な祝福をですよ！エサウは、「待ってました」とばかり、ヤコブの手からパンとレンズ豆のあつものを受け取って、ガツガツ食べて去って行きました。大切な長子の特権を軽いものとみなしてしまいました。その後、涙を流して祝福を求めましたが、捨てられて、二度とチャンスはありませんでした。

いのちの祈り 天のお父様、エサウのようにならないで、あなたの霊の祝福を心から追い求めていけますように助けてください。